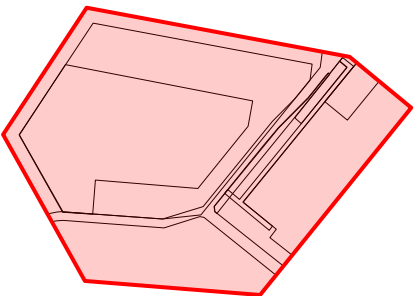


国際戦略総合特区【夢洲・咲洲地区】

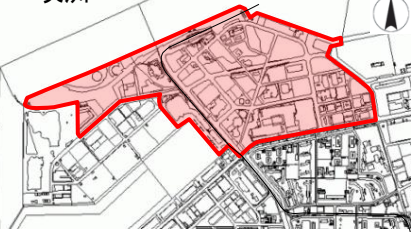
夢洲



◆地区概要

- ・関西では、リチウムイオン電池などの二次電池や太陽光パネル等の生産拠点が集積するとともに、環境分野の研究機関も多数立地している。
- ・当該エリアを含む大阪湾岸部には、関西国際空港や国際コンテナ戦略港湾に指定され高機能の物流施設を有する阪神港が存在し、これらを結ぶ都市高速道路網が整備されるなど交通アクセスが充実している。
- ・咲洲地区には、業務・研究機能を有する企業や、コンベンションセンター・見本市会場等が立地している。
- ・咲洲地区にて、研究開発等の企業立地に向けた用地売却を進めているとともに、夢洲地区においても、平成25年春より産業・物流拠点用地(40ha)の売却を予定している。

咲洲



※ 総合特区エリアには舞洲地区の一部を含む

◆めざす姿

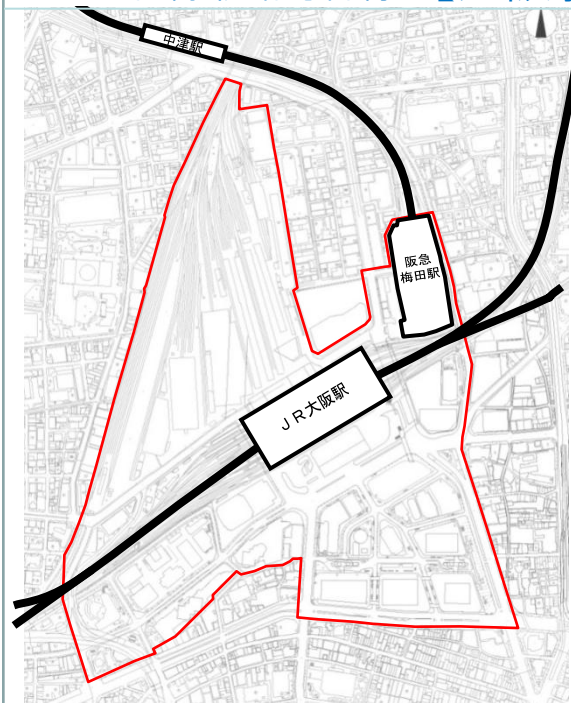
- グリーン・テクノロジー・アイランド(環境技術島)の形成
- ・環境技術やエネルギー産業の生産拠点等の集積

◆総合特区の取組み内容

- 湾岸部スマートコミュニティ実証によるパッケージ輸出の促進
- ・夢洲地区ではメガソーラーや蓄電池等を活用した安定的な新しい電力システムの構築をめざしている。
- ・咲洲地区では鉄道線路を活用し電力と熱の相互融通を可能とする独自の供給システムの構築等スマートコミュニティの展開を図っていく。
- バッテリー戦略研究センター機能の整備
- ・バッテリーの新たな需要創出(新型EV*・医療用等)や安全性・性能評価のための機能の整備を行い、企業・人材の集積を促進する。

国際戦略総合特区【大阪駅周辺地区】

◆地区概要



- ・西日本最大のターミナルを有し、関西の主要都市とのアクセス性に優れ、都市圏の中枢に位置している。
- ・企業の集積や都市基盤の整備が高度に進展したエリアであり、大阪ステーションシティ(JR大阪駅ビル)、阪急百貨店建替等、民間開発が着実に進んでおり、当該エリアの更新・拡充がなされつつある。
- ・今後も、「うめきた先行開発区域」(7ha)において、平成25年春にまちびらきが行われるなど、様々な民間開発が予定されている。

◆めざす姿

- うめきたの「ナレッジ・キャピタル」を中心とした「知の集積」エリアの形成
- ・有能な人材や世界的な企業の集積による新しい価値の創造

◆総合特区の取組み内容

- 国際的な医療サービスと医療交流の促進
- ・都市のインフラ*として、国際的な医療サービスの提供などにより、海外からの人材や企業の進出の促進を図る。
- 先制医療等の実現に向けた環境整備・研究開発促進
- ・未病データを活用したバイオマーカーの開発など予防医療の推進を図る。
- 診断・治療機器・医療介護ロボットの開発促進
- ・情報通信技術を活用した最先端医療健康維持デバイスおよびシステムの開発などの促進を図る。
- イノベーション創出事業
- ・グローバル*な視点を取り入れた新ビジネスの創出や新製品の開発促進を図る。

第5章 成長をリードしていく仕組み —総合特区*制度⑤—

国際戦略総合特区*【北大阪地区】



◆地区概要

・北大阪地区には生命科学(ライフサイエンス*)の最先端研究を行う大学・研究機関や医療機関が立地している。

・彩都(西部地区)の彩都ライフサイエンスパークは、ライフサイエンスの研究開発拠点として、基礎研究を産業化につなぐバイオ*ベンチャー等が集積し、近接する大阪大学との連携も相まって、具体的な成果が生まれつつある。

・グリーンイノベーションの分野においては、茨木市東芝町に、スマートコミュニティ*を構築する。

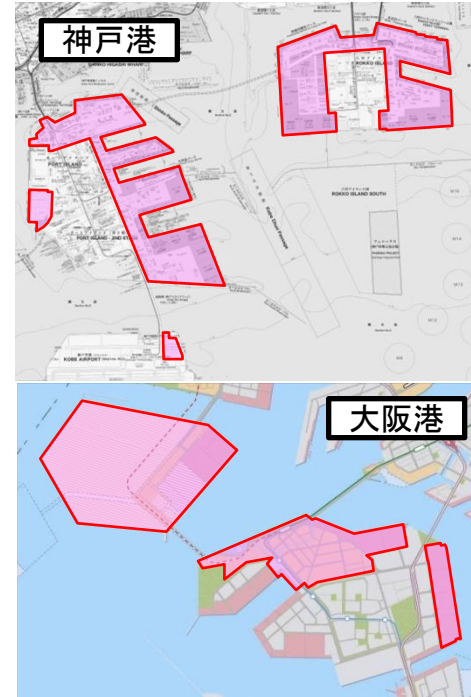
◆めざす姿

- バイオ関連企業や研究基盤の集積といった強みを生かし、革新的な医薬品・医療機器等の開発・実用化の促進
- スマートコミュニティのビジネスモデル*を構築し、グリーンイノベーションによる成長を実現

◆総合特区の取組み内容

- PMDA(医薬品・医療機器総合機構)WEST機能の整備
 - ・大学や製薬企業等が、研究開発の初期段階からPMDAと密接に連携できるよう、関西への調査・相談デスク の設置を要望
- 治験*センター機能(バーチャルネットワーク)の創設
 - ・高度医療機関が連携し、臨床試験*からの系統的な治験、臨床研究*を実施できる環境整備
- 先端医療技術(再生医療*等)の早期実用化
 - ・細胞シートによる心筋再生、角膜再生技術の確立
- 医療機器開発促進プラットフォームの構築/医療機器の国際市場開拓
 - ・世界市場をターゲットにした製品開発と、ものづくり企業の医療機器市場への新規参入を支援
 - ・医療インフラ*(医療機器・医療技術)のパッケージ化、アジア中心に海外展開
- ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の実用化促進
 - ・世界初の身体に優しい究極のピンポイントがん治療の実現
- 事業性を確保したスマートコミュニティのビジネスモデルの構築

国際戦略総合特区【阪神港地区】



◆地区概要

・我が国コンテナ港湾の国際競争力の強化を目指し、さらなる「選択」と「集中」を図るため、平成22年8月に「阪神港」が「京浜港」とともに「国際コンテナ戦略港湾」として国から選定された。

・阪神港においては、荷主に対する低コスト、多頻度・多方面、確実な国際輸送サービスを提供し、イノベーションを下支えする基盤としての機能を強化するため、

- ①国内コンテナ貨物の集荷機能強化
 - ②港湾コストの低減
 - ③民の視点による港湾経営の実現
 - ④物流関連企業、先端産業の立地促進による創荷
- に取り組むこととしている。

◆めざす姿

- 西日本の産業と国際物流を支えるゲートポートとして、機能拡大(基幹航路の維持・拡大)
- 釜山港等東アジア主要港湾と対峙できる港湾サービスを確保し、国内ハブ機能再構築
- 基幹航路の拡大に向けた取扱貨物量を確保、東アジアの国際ハブポートとして機能

◆総合特区の取組み内容

- 国内コンテナ貨物の集荷機能強化
 - ・内航フィーダー*輸送の強化、インランドポート*の設置による広域からの集荷
- 港湾コストの低減
 - ・基幹施設・荷役機械等の整備促進による基幹航路の維持・強化
- 民の視点による港湾経営の実現
 - ・埠頭(株)の財務体質強化によるターミナルの効率的運営
- 物流関連企業、先端産業の立地促進による創荷
 - ・企業の立地需要に応じた用地提供